

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2020~2021年度 No.246

7 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間：キックオフ
Change!2022

今月の聖句

主の御使いはもう一度戻って来て、エリヤに触れ、「起きて食べよ。この旅は長く、あなたには耐えがたいからだ」と言った。

(旧) 王上19:7

・7月第1(キックオフ)例会

日時：7月24日(祝・金)午後1時30分~

場所：原田 時近ワイズ宅(塩谷町田所)

コロナウィルスの影響を考慮して、三蜜にならない、ソーシャルスタンディングをとりながら、マスク着用、各自飲物を持参して、メン・メネットのみでの開催。

司会 副会長 田村 修也

開会点鐘 会長 河野 順子

ワイズソング・ワイズ信条 一同

聖書朗読・祈禱 司会者

会長挨拶

総会 議長 河野 順子

2019~2020年度事業報告

2019~2020年度会計報告

2020~2021年度事業計画(案)

2020~2021年度会計予算(案)

その他・懇談

Zoomの勉強会(各自パソコン持参)

諸報告 那須ワイズ

那須YMCA

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

2020~2021年度 主題

国際会長：(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

アジア太平洋地域会長：(AP) David Lua(台湾)

「変化をもたらそう」

東日本区理事：(RD) 板村 哲也(東京武蔵野多摩)

「変化をたのしもう！」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

6月例会データ(出席率：60%)

在籍者 6名(内 功労会員1名) 例会出席者 3名

7月 Happy Birthday

7/8 村田 紀美子メネット

7/11 鈴木 保江 ウィメン

・7月第2例会(役員会)

日時：7月3日(金)午後0時から

・7月第1(キックオフ)例会

日時：7月24日(祝・金)午後1時30分から

場所：原田ワイズ宅

・8月第2例会(役員会)

後日連絡

・8月第1例会(野外納涼例会)

後日連絡

巻 頭 言

河野 順子

私の住んでいる人口72,000人強(2020年)の街(以下、当市という)は、支え合いの地域づくり一環として、見守り隊なる活動がある。2009年~2013年の5年間、厚生労働省の「安心生活創造事業」のモデル事業として、全額補助を受けて市が実施していたのが始まりである。2014年から、5年間の趣旨と実践を生かし、単独事業として実施しているという。名称は、「安心生活創造事業」から「安心生活見守り事業」と改められた。運営は、当市から市社会福祉協議会が、委託され実施している。趣旨は、地域の中には、一人暮らし高齢者世帯、障害のある方など、何らかの助けを必要とする人がいる。このような方々が、地域社会から孤立せず、慣れ親しんだ地域で安心した生活が送れるよう、地域住民の協力を得て、相互に連携し、地域全体で見守り助け合いの支援を行うことを目的としている。

65歳以上の一人暮らしは、全国で1980年では65歳以上人口に占める割合は、男性4.3%、女性11.2%である。2015年では男性13.3%、女性21.1%となっている。(平成30年版高齢社会白書・全体版・内閣府)。また、1980年では、世帯構造の中で、三世帯世帯が一番多く、全体の半分を占めていたものが、2016年では、夫婦のみ世帯が約3割を占めており、一番多い。これは、単独世帯と合わせると、半数を超える状況である。(同上出典)。この現象は、当該市でも例外ではない。2015年当市の一人暮らしは、13.2%である。このような現象は、2025年問題を照らしても何か手立てが必要なのは確かである。そこで、見守り隊は継続する意義があった。

昨年からは、私はその見守り隊の見守る側として参加している。活動内容は、日頃、家族が支援を期待できない方で、「ひとり暮らし高齢者世帯」「日中高齢者世帯」「高齢者世帯」「障害のある方」を対象に、「声かけ・安否確認」等の見守りが主たる活動内容である。それ以外に、「買い物支援」「ゴミ出しの手伝い」「話し相手」などの活動もある。私の受け持ち高齢者は、月数回の声かけに「待っています。積もる話をしたい」の方々である。

高齢になると身体に何らかの不安を抱えている。何種類もの薬を見せ、「この薬は腰の薬」「この薬は頭の薬」「この薬は心臓の薬」と、話は尽きない。あちこちの痛みや歩行困難であり、女性の場合は食事作りも立ち仕事のため苦であるようだ。この時期、マスクを手作りしているひとり暮らしの高齢者もいる。私自身も見守られる年齢であるが、当市の見守り隊のメンバーは、皆さん高齢者である。でも、社会貢献をしているメンバーは元気である。やる気満々で気概がある。高齢期からは日頃、健康に気をつけ、食事に気を配り、他者との関わりを持っている人が元気であり、年齢差は感じないように思う。とはいえ、このような人々も決して無病ではなく、上手に持病と付き合っているようだ。

健康寿命の延伸には、自分に見合った人のお役に立てることをすることと感じているこのごろである。

2019-2020年度を振り返って

7月19日から21日に仙台に於いて、アジア太平洋地域大会が全世界から集い開催され、21日には、北東部買いが国際会議場で大会終了後に開催され、華やかにスタートをきった。那須クラブでは、7月例会(キックオフ)から、ユースリーダーの参加も得られて順調なスタートでありました。8月例会は、きれいに整地できた、塩谷キャンプ場を使っの野外活動の勉強会をユースリーダーとともに行った。その時に原田ワイズより、塩谷キャンプ場に多くの桜が咲くようにとの願いを込められた、献金(200,000円)を託された。9月例会は、2020年度より開催する、ボランテ

ィアスクールについてユースリーダーとともに話し合いを行った。10月例会は、恒例のアジア学院でのバザーに参加。1日目は、豪雨の影響で中止となり、日曜日1日のみの開催。日曜日であり、交通機関が不通であったのでお客様が少なく、アジア学院に20,000円の献金をささげた。11月は、オオタカを守り会主催の那須街道松林の植樹に参加を特別例会とし、黒磯ガールスカウトの皆さんとともに参加。9月開催予定であった、日本の文化に触れる(茶道)をユースリーダーと共に開催。役員会において、集中豪雨への献金を東日本区に20,000円と個人でとちぎYMCAに行くことを決定。12月は、養徳園の方々を招待し、ワイズの協力者の方々とともに西那須野教会にて、西那須野教会の潘

牧師に奨励、ユースリーダーのゲームで楽しいクリスマス会を開催。北東部鈴木伊知郎部長の公式訪問。忘れてならないのは、会場を提供していただき全面的に協力して下さる西那須野教会と教会員、オルガニストの木村真紀子姉、例会毎に美味しい食事の提供をして下さる田村有希子姉に感謝です。1月新年例会は、いつもであればメン・メネットのみであったが、ユースリーダーの参加もあり、和やかで楽しく、1年の抱負を語る例会となった。2月例会は、ユースリーダーによる活動報告会としたが、残念ながらリーダーの都合が合わないために1名のみであった。3月例会は、3. 11揚がれ！希望の風、CS公開講演会を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。その後の第1例会は中止となった。第2例会（役員会）は、田村ワイズ宅で開催、書面での例会であったりした。6月役員会は、原田ワイズ宅において、Zoomの勉強会を兼ねての開催でした。第23回東日本区大会の準備をされてきた十勝クラブの方々は断腸の思いであったことでしょう。いつかまた訪問する機会があることでしょう。その時を楽しみにしております。田村ワイズの毎月第4金曜の午前10時から聖園那須老人ホームでの歌声もコロナの影響で中断。1年を振り返ってみれば、幸先良いスタートが切れたのに、新型コロナウイルスの影響で後半は、皆さんとの顔を合わせることもなく、ちょっと寂しかったです。ユースリーダーの皆さん元気ですか？最後に、3月卒業したユースリーダー2名には、那須ワイズより感謝の記念品を渡すことができました。また、お忙しい中、ブリテンに投稿して下さる西那須野幼稚園の福本園長、アジア学院の荒川校長、聖園那須老人ホームの赤坂施設長（6月よりは薄井施設長）に感謝します。田村ワイズの「旧西那須野（那須西原）の緑と水」も88回を迎えた。

7月第2例会（役員会）報告

日時：7月3日（金）午後0時～1時30分

場所：田村ワイズ宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、田村メネット

協議事項

1. 7月例会の開催の件

7月24日（祝・金）の午後1時30分より、原田ワイズ宅で開催する。但し、新型コロナウイルスの影響で中止となることもある。内容は、新年度計画について検討をする。

2. 新年度計画について、河野会長より提出された資料に基づき検討をした。

3. 8月例会については、7月例会時に決定する。

4. その他

・塩谷キャンプ場の状況について話し合いをした。とちぎYMCAとしては何ら検討がされていないような感じである。このまま放置できないので、昨年整地をしていただいた業者に下草狩りを依頼し、那須ワイズの会計で支払いを行う。原田ワイズより託されている基金、昨年狩り植えしているワイズの花木をどうするは今後の検討とする。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第88回）

田村修也

印南文作さんは、集まった人々の哀悼のうちに最後の息を引き取られました。開拓移住民の人々は父を失ったかのように、悲嘆の底に突き落とされてしまい、ただただ印南社長の冥福を祈るばかりでした。幹事の矢板武さんと会計事務掛の斉藤半次郎さんは、印南社長のご自宅で葬儀の次第についてトメ夫人や遺家族と打合せをして、墓地は印南社長の遺言通りに開墾を始めた一本木の第1農場事務所に程近い常盤が丘と決定いたしました。1月9日には、一区、二区、二つ室の開拓移住民一同を呼び寄せて、開墾地新役として11日中に墓地の新設を終了するように請け負わせました。その監督には斉藤半次郎会計事務掛が担当しました。この作業を進めている間に、稲村事務員を大田原警察署に遣わして、墓地新設願申請書を提出して手続きを行わせました。

10日午後には矢板武幹事も印南社長宅に到着して、その夜は斉藤半次郎さんも同宿して、葬儀万端について最後の打合せを行いました。明けて明治21年1月12日は印南文作社長との最後のお別れの日となりました。朝から雲一つない好天に恵まれましたが、高原おろしは一段と寒く、そのような中でもお手伝いの女性たちは寒さもものともせず、準備の為に忙しく働きました。

正午近くには、那須・塩谷両郡長をはじめ大田原・矢板両警察署長並びに近隣町村の有志70余名が参集して告別式に臨みました。正午からこれまで長い間住んでいた佐久山宿実相院住職の浜田雲山僧正の読経に始まり告別式が執り行われました。開拓移住民200余名の焼香も終わり午後1時出棺。

葬送の行列は、国道4号線と縦道の交差点に面したご自宅から、肅々と縦道をまっすぐに南下して常盤が丘に向かいました。街道沿道の両側には留守を守

る移住民の家族たちが立ち並び、印南社長の在りし日の姿を忍んで、涙ながらに合掌して見送るのでした。午後2時に二つ室の説教所（当時はまだ長延寺は建立されていませんでした）の」前庭で、印南文作さんとの最後のお別れの式を済ませた後、棺は新設された常盤が丘の上に静かに運ばれ、印南文作社長が心血を注いだ開墾地を永遠に眺めることができる丘の頂上付近に埋葬されました。

那須野が原開拓の祖である印南文作さんの御霊は安らかに鎮まり、那須野が原の将来を永遠に見守り続けることになりました。

翌日13日の午後に矢板武さんは、印南さんのご自宅で葬儀一切の諸掛りについて齊藤半次郎会計に明細書を作成させて、これをトメ未亡人に手渡した後、烏ヶ森の西側麓ある那須開墾社本社に帰って、移住民一同に飲食をふるまって、労をねぎらいました。その夜は本社に泊まって翌日矢板にある自宅に帰って行きました。

印南文作さんは、生前苦しい病床の中で、御自身の履歴を書いて残してくれました。この機会に全文をご紹介させていただきます。この履歴書が絶筆となりました。

印南文作自筆の履歴書＝絶筆＝

印南文作 五十六歳

一 日光 丁町本町神山長兵衛長男

文久二戌年十二月佐久山印南丈七養子トナル

一 慶応二寅敏四月 町年寄役ヲ領主福原内匠ヨリ被申付
駅路継立（もうしつけられ えきじけいりゅう）且市政ノ事ニ関ス 同年関東取締寄場組合三十五ヶ村取締ヲ兼務ス（以下次号へ続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

新型コロナウイルスに感染されて病床にある方のご回復、医療・介護関係者、そして、感染対策のために労されている方々に感謝し、ご健康を祈ります。

先日、伊豆に住んでいる友人から自治会の役員による訪問があったというメールを頂きました。彼は定年後、大好きな鮎釣り、海釣りをしたいとのことで、伊豆の別荘地区に移り住んでいます。自治会役員によると、このコロナ禍で数名の孤独死がありましたので、安否確認の訪問ということだったという話でした。

これと似たような話が先週の「ケアラーズ・カフェ」でもありました。自粛が解除されましたので、

高齢者の方を訪問しますと、以前より認知機能の衰えが進んでいる方、うつになられた様な方が増えていました。自粛期間中に電話でのケアは行ったが、イライラされている方もおり心配していましたので、訪問による見守りを続けければ良かったということでした。

そこで、徳島県のある自治公民館事務をしている友人に、公民館活動の停止による地域の方への影響をメールで尋ねました。「お祭りは、中止になりましたが、6月中旬から少しずつ活動を再開している」とのことでした。

「先日は、花の植え替えをしました。久しぶりの公民館活動で参加者は多く、皆さんお元気でした。高齢者の方々ですが、農作業もやっているからかな」との返信でした。その公民館は放課後児童クラブも併設され、地域の農産物、コミュニティ・カフェ、コミュニティ・バスの運営もしています。

東日本大震災の時も、日頃のコミュニティ活動の大切さが叫ばれましたが、住んでいるコミュニティの違いで、人生が大きく変わることには驚かされました。子どもの子育ても同じです。

ところで、本園は西那須野教会の地域奉仕の1つとして、地域の皆様のご協力のもと、開園し、地域と共に歩んで参りました。特に2000年からは「トロ・プロジェクト」ということで、この地域の変化や必要に応える形で、この幼稚園が果たしてきた働きや機能を強化するために、施設間が協力して様々なことに取り組んでいます。現在は、コロナウイルス感染対策で地域の皆様と交流ができないことが残念ですが、新たな方法を模索しています。

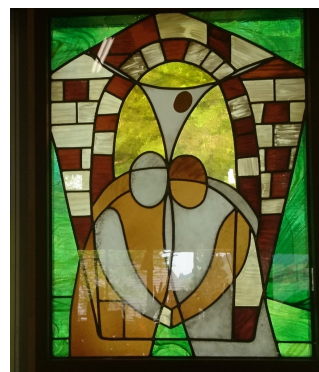
この地域が持続可能な地域として存在し続けるために、こどもだけではなく、全世代対応の働きができるのと良いと考えます。那須YMCAの働きに期待しています。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

校長 荒川 朋子

和解と一致を目指して



アジア学院のキャンパスの中央に位置するコイノニアという大きな建物は、食堂、教室、厨房、会議室、図書室などを擁し、私たちコミュ

ニティーメンバーが最も頻りに集う大切な場です。その中の12角形の食堂の壁の窓には、この写真にあるようなステンドグラスが飾られています。これは2018年の12月の卒業式に寄贈されたもので、原画はクリスチャン画家として有名な渡辺総一さんの「十字架を通して」という作品で、それを峰田公子さんという、渡辺先生の絵を数多くステンドグラスにされた方がアジア学院の食堂の窓に合わせてステンドグラスにくださったものです。絵の中には、2人の肌の色の違う人間が肩を組み手を取り、その周りにはレンガの建物、そして2人の真ん中には十字架のイエスの姿が描かれています。この絵について、渡辺さんが贈呈式の時に読んでくださった文章から紹介したいと思います。

「このステンドグラスの原画は、今から2年前に明治学院大学から出されております『白金通信』という冊子の中の、「聖書のことば」というページのために描いたものでした。(省略)この絵の内容は、そのページに掲げられましたエフェソの信徒への手紙第2章によっています。聖書はこのように言っています。『実に、キリストはわたしたちの平和であります』（14節）、なぜならキリストは異邦人とイスラエルの民「二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまった』からです（16節）、そのことによって共に「神の家族」とされるのだ（19節）と。このみ言葉に应答して、十字架のキリストが二人の間に入り、敵意という隔ての壁を取り壊し、和解と一致のキリストの体なる教会を造るレンガの一つ一つになっていくという、この構図を授かったのです。」

さらに渡辺さんはこのように続けます。

「わたしは描くうちに、このキリストとわたしたちのつながりについて、法隆寺という世界最古の木造建築の宮大工、西岡常一（つねかず）さんがかつて話されたことにも重なってきました。キリストは捨てられた隅の親石である、礎石であると言われていますが、西岡さんによれば、礎石というものは塔全体の何百トンもの重量に耐えて、それを支えているのだそうです。同じようにわたしたちの和解と一致のために、隅でまた一番低い所でわたしたちの罪の全重量を担い支えておられるのが、キリストであることに気付かされました。

また法隆寺は飛鳥時代に建てられ1300年も立ち続けている建築ですが、檜という木を割り、割られたそれぞれの木のくせを生かして建てられているそうです。要らないと捨てられる木は一つもないそうです。まっすぐ美しいけれどそれほど強くない木

もあれば、節があり曲がっているけど強い木もあります、しかしそれぞれの不揃いのパーツが生かされ組み合わせられて、丈夫な建物が建つそうです。それと同じように二つの異なる民が一つの体とされることは、いろいろの種類石が生かされ組み合わせられて、一つの丈夫な建物になるのだと思いました。しかも、第一コリント12章によれば弱く見える部分が、実は身体全体がいたわり合い支え合うために、むしろ不可欠なのだ、と言われています。わたしたちの中で最も弱い者、最も小さな者が、全体にとって最も大切で不可欠なのだ、ということです。」

コロナ禍の中で社会のひずみがあぶりだされていると言われていています。今日の前には、それまで隠れていてよく見えなかった人々の違いや格差と、そこから派生する問題が次々に明らかな形で現れてきていて、それらをどうするのかと問い突き付けられているような気がします。破壊され、ばらばらになった私たちでも、このステンドグラスの中のレンガの建物のレンガのように、再び和解と一致を目指して、やがて強く立っていく構造物のひとつひとつになりうるのか、隅でまた一番低い所でわたしたちの罪の全重量を担い支えておられるキリストに気付くことができるか、そしてそのキリストに従う者に変えられるよう望んで生きていくことができるか、そのようなことを思います。

YMCAだより

【とちぎYMCAリーダーZoom交流会を行いました！】

とちぎYMCAのリーダー主催のZoom交流会が行われました。当日は那須・宇都宮・トライ東など各拠点で活動をしているリーダーがWEB上で集まり、新リーダーや先輩リーダーとおしゃべりなど楽しい時間を過ごしました。夏のプログラムに向けて普段はなかなか会えないリーダーと仲を深めることができ、弾みをつけることが出来ました。





- ・変化を求められているときに、一步踏み出す勇気もない。何かあったらどうする。悔やむことになったらどうすると毎日思っています。
- ・新年度の会費の納入をお願いします。

【とちぎYMCA・那須YMCAの7月の予定】

- ・7/4 (土) サタデークラブ@水遊び
- ・7/5 (日) Yキッズ@鬼怒川オートキャンプ場
- ・7/5 (土) サタデークラブ@水遊び
- ・7/19 (日) 川遊びプログラム@鬼怒川オートキャンプ場
- ・7/23 (木) ~ サマープログラム開始

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言



- ①山中愛実(あいすけ)
- ②国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科
- ③栃木県小山市
- ④友だちのツイートを見てYMCAを知り、ボランティアに興味があったことから入り

ました。

- ⑤7月のYキッズグループリーダーを1年生だけでやって自分から行動できることが増えたからです!
- ⑥子どもと関われる言語聴覚士になりたいです!
- ⑦楽しく元気に頑張ります

編集後記

・コロナウィルスの非常事態宣言解除後、少しずつタガは外れたように気持ちのゆるみがあることを思う。経済とコロナとの共生を模索するときであろうと思うが、老人を抱える者としては、前に一步踏み出すことにどうしても躊躇してします。一日も早い治療薬の開発を祈るばかりです。

・コロナウィルスの感染者数が毎日のように増えてきていることを思うと、本当に今のやり方でいいのかと思います。おっかなびっくりです。